

報道関係者各位

2008年2月吉日

第70回 虎屋文庫資料展のご案内

源氏物語千年紀

# 「源氏物語と和菓子」展

2008年5月17日(土)～6月16日(月) 10:00～17:30

虎屋ギャラリー(虎屋ビル2階) 入場無料/会期中無休

地下鉄赤坂見附駅A出口より徒歩約7分

『源氏物語』は、千年にわたり日本人に愛され続けてきました。今回は過去に大変ご好評をいただいた展示を再構成し、物語の情景を思わせる菓子を、片野孝志先生作の料紙りょうしとともにご紹介します。和菓子で描く『源氏物語』…。雅やかな王朝の世界をお楽しみください。

なお、この展示は源氏物語千年紀委員会の後援事業です。

## 華麗！和菓子が彩る源氏物語の世界

長年宮中の御用を勤めてきた虎屋には、御所車や檜扇ひおうぎなど、『源氏物語』の風情を思わせる意匠や銘の菓子が伝えられてきました。これらの菓子を、料紙と組み合わせることにより、華麗な『源氏物語』の世界がさらに広がります。また、尾形月耕の明治時代の錦絵「源氏五十四帖」も合わせて展示いたします。

## 王朝の雅がよみがえる料紙の美

平安貴族たちは、手紙や歌の贈答、歌集の筆写などに料紙と呼ばれる美しい紙を使っていました。様々な技法が凝らされ、王朝の美意識を伝える料紙ですが、現代の私たちから見るととても斬新です。

## 展示品

片野孝志 料紙(平安朝和紙)、絵画作品ほか 『源氏物語』の情景を思わせる菓子約40点  
尾形月耕 錦絵「源氏五十四帖」54点

**展示解説** 毎週月曜日 10:30～。参加自由。

## お問い合わせ先

〒107-8401 東京都港区赤坂4-9-22 株式会社 虎屋 虎屋文庫

Tel 03-3408-2402 Fax 03-3408-4561

e-mail [bunko@toraya-group.co.jp](mailto:bunko@toraya-group.co.jp)

<http://www.toraya-group.co.jp/>

## 片野孝志先生のご紹介

昭和9年（1934）、東京生まれ。「三十六人家集」（平安時代・国宝）に魅せられて以来、雅な料紙（平安朝和紙）の復元を試み独自の創作活動を展開されています。文化センター講師、北京中央美術学院客員講師などを務める傍ら、国内百貨店ほかロンドン、パリ、ミラノ、中国など海外でも個展を開催。『日本文様事典』『王朝文様事典』（ともに河出書房新社）など文様関係の著作も多数あります。

2008年は「書上の胡蝶」と題し、上海図書館で作品を展示されたほか、北京の中国美術館においても10月14日～17日に作品展を開催されます。

## 料紙とは

染めたり、文様を刷った鳥の子、<sup>こうぞ</sup>楮などの種々の和紙を「切り継ぎ」「破れ継ぎ」「重ね継ぎ」などの技法でつなぎあわせていく装飾的な紙。平安貴族たちはこの紙を手紙や歌の贈答、歌集の筆写などに用いていました。『源氏物語』にも「つれづれなるままにいろいろの紙を継ぎつつ…」（須磨）とあり、貴族のたしなみの一つだったことがうかがえます。斬新な画面構成や色の対比、金銀の切箔や金泥、銀泥による装飾は、現代の人々をも魅了します。

## 源氏物語千年紀委員会とは

『紫式部日記』の寛弘5年（1008）11月1日の条に「若紫」「源氏」などの記述が見え、『源氏物語』の存在が確認できることから、平成20年（2008）を「源氏物語千年紀」とし、その価値を広く発信するため、著名人8名の呼びかけにより、京都府・京都市をはじめ『源氏物語』にゆかりの深い各団体が参画し、設立されました。

<http://www.2008genji.jp/index.html>

\* 同封の写真は片野孝志先生の料紙と薯蕷製「若紫」です。

「若紫」の帖で、召使の童女が雀を逃がしてしまったと泣く若紫（後の紫の上）を、源氏が見初めます。菓子籠の籠目模様は、若紫が雀を入れておいた伏籠を思わせます。